



「新春揮毫」 林 龍 峯 謹書



### 御祭神数

当神社に御鎮祭申し上げております  
御祭神は四万九千七百二十八柱です。

### 建国記念日祭挨拶

宮司 額田照彦

りました。

令和二年一月に新型コロナウイルス感染症が確認されてより、約三年という長い時間の中で、先の見えない、またかつて経験したことのない、不慣れた日常生活を強いられ、生活様式を根本から変えざるを得ず、改めて平穏な日々を過ごせることの有難さを痛感することとなりました。

本年一月一日に発生しました「能登半島地震」により犠牲となられた多くの御霊に謹んで哀悼の誠を捧げますと共に、被災された皆様方に心からお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。  
本日御参列の皆様方をはじめ、友好団体、崇敬者の皆様方には、日頃より英霊の慰霊顕彰、神社の護持運営に格別のご配慮を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

本日、皇紀二千六百八十四年建国記念日祭に際し、護國の御霊に悠久の歴史を誇る御皇室の弥栄と、国家の繁栄・世界平和を奏上御祈念申し上げます。

さて、昨年五月八日に、新型コロナウイルス感染症が「五類」に移行され、種々な規制対策も緩和され、社会も落ち着きを見せ、神社の祭典行事等もコロナ禍前のあり様に徐々に戻り、少しずつ日常が戻って参

さて、令和四年二月、突如としてロシアによるウクライナへの侵略戦争が勃発し、和平への兆しが見えないなか、令和五年十月には、今度は中東のガザ地区において、イスラム組織ハマスとイスラエルとの地域紛争が起こり、日々戦禍による痛ましい多くの犠牲者が発生しており、ガザ地区住民の深刻な窮状が伝えられています。これらの戦争犠牲者の御霊に哀悼の誠を捧げ、ガザ地域住民の安寧を切に祈念申し上げます。

これら世界各地での紛争が絶えない今日の状況をみると、平和は座していても維持されるものではないことを肝に銘じ、建國のもと固有の歴史や伝統文化を有する我が国は、自らの国は自ら守るといふ気構えと覚悟がより大切な時ではないかと思いま

す。改めて誇りある国づくりの根幹には、皇室を仰ぐという、日本古来の思想が必要不可欠であることを感じる次第でございます。

また、来年令和七年は、大東亜戦争終結八十年目を迎えます。当護國神社におきましても、終戦八十年の節目の年を迎えるに際し、御遺族・崇敬者・関係団体の皆様方には、更なる御支援と御協力賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、本日ご参列の皆様方の、御健勝と御多幸を衷心よりお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

## 戦後の遺族の歩みと

### 次代へ向けて

愛媛縣護國神社崇敬会

会長 竹内 誠 治



令和六年の新年度にあたり、皆様方の弥栄を願ひ、爽やかな春の訪れに際し、ご遺族、護國神社崇敬者の皆様にご挨拶を申し上げます。

平素より、護國神社の春秋の慰霊大祭を始

め、各種神事行事に、ご理解とご協力を賜り、改めて厚く感謝御礼申し上げます。

昨年五月にコロナウイルス感染症が五類に移行し、やっとコロナ禍も収まりを見せ始めたところに、年初には、能登地方を中心に甚大な被害をもたらした未曾有の災害となった能登半島地震を被災し、多くの犠牲者と数多くの被災者の窮状が伝えられております。

この度の犠牲者を想い偲び、哀悼の誠を捧げ、改めてご冥福をお祈り申し上げます。被災地で困窮する方々に、心よりお見舞いを申し上げますと共に、復旧復興の兆しや平穏な日々が訪れますよう祈るばかりです。

多数の尊い命が失われた先の大東亜戦争終結から七十九年目を迎えました。戦没者諸霊は、わが身と最愛の家族を顧みず、ひたすら祖国の安泰と平和を願い、ついには尊い命を祖国のために捧げられました。懐かしい故郷の山や川を想い、もつと生きたい、そして故郷に帰り、愛おしい妻子、優しい家族に会いたいと思いつつ散華された諸霊の往時を偲びますと、今なお痛恨の極みでございます。

我々遺族は、戦後の混乱の中で最愛の家族を失った悲しみに耐えつつ、英霊の慰霊顕彰に尽力し、心が折れそうな時にもお互い助け合い、励まし合って懸命に生きぬいてまいりました。今日の物心ともに安定した生活を取り戻すことができましたのは、周りの人々の温かい思いやりと、命をつないでいただいた諸霊のご加護によるものと、衷心より感謝申し上げます。

戦後、この平和な社会を築いてきた我々も高齢になりました。二度と我々のような遺族

を出さないため、今、改めて平和への思いを一つにする時です。先代が礎となった、立派な土壌を継承し、次の世代、そして更に次の世代へと、将来にわたって絶え間なく美しい花を咲かせるため、戦争の傷跡を風化させることなくしっかりと語り継いでいかねばならないと思ひます。

現在の我が国の平和と繁栄は、先の大戦で祖国の安泰と家族の平穏を心から願い、戦場で散華された多くの犠牲のうえに成り立っていることを忘れてはなりません。多くの英霊に報いるためにも、現在の平和を維持し、二度とあの悲劇を繰り返してはなりません。

ヨーロッパ地域では、依然ウクライナでの戦争が続き二年以上経過し、また、昨年秋季には中東ガザ地区で紛争が起り、日々痛ましい犠牲者と多くの遺族が、そして遺児が出ています。日々各地の悲惨なニュース映像を見るたび、その惨状に対し怒りを覚えるとともに、むなしささえ感じます。

このような厳しい国際周辺情勢のなか、ご遺族の高齢化はさらに進み、戦争を知らない世代が九割を超え、先の悲惨な記憶は風化の一途をたどっております。この風化の連鎖をなんとかして止めてゆかねばなりません。そのために、我々崇敬者は、護國神社の各種祭典行事をはじめ、英霊の慰霊顕彰事業等を通じて、平和の有難さや尊さを若い世代に語り継いでゆかねばならないと思っております。

今後とも、崇敬者の皆様にはより一層のご協力を賜りますようお願い致しますと共に、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

祈念史料室 みゆきだより (八)

母とともに

松山市遺族会女性部

副部長 得 居 啓 子

(北条女性部長)

戦後七十八年が経ち、私も八十二歳になりました。父は昭和二十年二月、激戦地となったフィリピン・ルソン島で、三十三歳で戦死しました。私が三歳の時です。当時、父は神戸の川崎重工に勤めていましたが、昭和十九年八月、私服のまま招集され、九州から出航するとの手紙が最後になりました。

それから母と私は、母の郷里である北条に帰ってきました。その頃はまだ、母の両親は健在で、伯父も伯母も本当に温かく迎えてくれました。間もなく弟が生まれましたが、父は知るよしもありません。また弟は長い間、伯父を父と思っていたようです。皆のお蔭で寂しい思いや食べるものにも困ることなく暮らすことができました。しかし、乳呑み子を抱えた母の苦勞は言うまでもありません。

小学校二年生の時、北条の駅まで皆で父の遺骨を迎えに行きました。白木の箱を抱えるのと、こつこつと音がしたのが不思議でした。

母は子供から少し手が離れると、洋裁学校に通い、自分の着物を売りミシンを買い、洋裁店を始めました。私たちの服は全部母の手づくりで、皆から羨ましがられ、従姉妹たちも喜んでいました。

それから母は調理師の免許を取り、学校の給食に従事しました。毎晩、試験勉強をしている姿は、今でも忘れることができません。この間も病弱だった伯母に代わり、両親を看取り、伯母が亡くなった後は、甥や姪の母親代わりになり尽くしていました。

やつと苦勞が報われ、人並みの幸せがあるかのように思えましたが、私の夫の若すぎる死、そして幼子を残して弟の死、母の悲しみは言葉では言い尽くせませんでした。それでも母は残された孫のため、気丈に頑張っていました。

母と一緒に暮らすようになり、母は父の話をするようになりました。私が父にそっくりなこと、登山が好きなこと、和歌の会があれば舞姿で出掛けたこと、たばこの配給があれば職場の人の分まで母に頼んだこと、そしていつも大きなパンを買ってきてくれたこと、母は懐かしそうに話していました。

私が退職してからは、二人で俳句を作ったり、水墨画で帰りが遅いと心配してくれたり、最後まで頼れる気丈な母でした。百歳までは頑張ってくれると思っていました。世話もかけず、平成二十五年二月、九十七歳で父のところへ旅立ちました。亡くなる少し前に、「あなたに謝らないかんのよ。大学まで行かせられなかったのが心残り」と。これを聞いたとき、何十年もの間、娘の夢（教師）を叶えてやれなかった負い目をずっと抱えていたのかと、涙が止まりませんでした。多くを語らなかつた母でしたが、悲しみを胸に乗り越えてきたのだと改めて思い、母の娘であることに感謝しました。

母に報告しなければと、平成三十年十一月「戦歿者遺児による慰霊友好親善事業」に参加しました。父の終焉の地へ、やつと訪れることができ、七十三年間の思いを父に報告することができました。その時に詠んだ拙い俳句です。

- 念願の慰霊に供ふ新走り
- 郷里の供物の山や身に入むる
- 身に入むや考※考とも拾ふ石一つ
- 身に入むや涙で読めぬ追悼文
- 妻子恋ひルソンに果てし時雨虹
- 椰子の風魂の声とも秋寂ぶる
- 積年の慰霊果せり初時雨
- 慰霊終へ父を身近に冬ぬくし

※考※考…亡くなった父

私たちのように、戦争未亡人、戦争遺児を決して作ってはならないと御魂に誓い、慰霊



フィリピン・ルソン島キャピテ州ハゴノイ (平成30年11月)



の旅を終えました。

私は母の後を継ぎ、遺族会のお手伝いをするようになりました。その頃は、各家庭ごとに町費と一緒に遺族会の奉納金が集められていました。慰霊祭も行政が中心になって執り行ってくれました。

その後、すべて遺族会が運営するようになり、また会員数も減り、平成三十年の慰霊祭が最後になりました。現在は年五回、忠霊塔の清掃をしております。

今、世界では侵攻、内戦と悲惨なニュースが後を絶ちません。日本では戦争の記憶も薄れ、平和と繁栄が当たり前ようになっていきます。今こそ私たちは、国や家族を案じながら散華された英霊に報いるため、英霊の顕彰と戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐことが使命だと思つて止みません。

## 第七十回 新穀献納慰霊祭

愛媛縣護國神社

令和五年度(第七十回)新穀献納慰霊祭は一月十一日(木)午前十一時より、護國神社で厳かに執り行われた。

愛媛県郷友会永井会長が祭主となり斎行された。当日は天候にも恵まれ、ご来賓、団体代表、会員代表四十五名で斎行した。

県下会員、県民の御協力により拠出されたお初穂料・新穀を奉納し、英霊を御慰めします。御尽力戴いた皆様に感謝申し上げます。

## 祭文

本日、愛媛縣護國神社の大前において、ご来賓及び郷友会会員多数ご参列のもと、第七十回新穀献納慰霊祭が厳かに執り行われるにあたり、郷友会を代表して謹んで祭文を奏上致します。

この献穀運動は、幾多の事変、特に大東亜戦争において、戦禍に倒れ、あるいは、遠い異郷の地に亡くなられた郷土の英霊の皆様方に、収穫された新米を献じることから、日本郷友連盟の発足する三年前の昭和二十八年に始まりました。

今日の豊かな生活を享受できるのは尊い英霊の犠牲の上であり、感謝の誠を捧げる慰霊顕彰の伝統行事として会員の皆様の協力を得ながら続けて参りまして、今では定着されており、今後も永久不滅の愛のある愛媛県の誇れる伝統行事として継続実施する決意を新たにしております。

しかし戦後七十八年も過ぎ、会員の高齢化による活動の衰退、減少が著しく、戦争を知らない世代の国民が八割以上を占めて慰霊顕彰の理解のない今日、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、事業活動も制約を受け対策に苦慮致しましたが、やや小康の兆しがあるも油断はできません。国内外の難問に対応するためどのような対策を講じてゆくべきかと苦慮する時代を迎えております。

私も日本郷友連盟の理念でもある、自分の国は自分で守るといふ国防意識の高揚、英霊・殉職自衛官の慰霊顕彰、栄光ある歴史及



び伝統文化を継承するという、三点の具現実行を通じて組織の強い活性化と維持に努めながら、先輩としてこの事業を語り継ぎ、継承・存続しなければならぬと痛感しております。今後におきましても、私どもは御祭神四萬九千七百二十八柱の方々のご加護を戴きながらこの事業を続け、百三十万県民のやさしさとパワーを結集し、豊かで住みやすい郷土づくりに専念努力する所存であります。

また自衛隊に関しては、最近の近隣諸国の動静は予断ゆるしがたき不穏な行動が多く憂

慮される中、益々のご奮闘を期待すると共に、我々は限りなく最大限の支援を続けて参ります。

終わりにりましたが、在天の英霊どうか、ご遺族の皆様をはじめ県民全てにご加護を賜り、安らかにお鎮まり下さいますよう祈念し祭文と致します。

令和六年一月十一日  
愛媛県郷友会会長 永井之保

『戦友団体等による慰霊祭』

- 令和五年 十月五日 愛媛県隊友会
- 十月二十八日 愛媛偕行石鉄会 戦争裁判殉国者
- 十一月二十二日 愛南町遺族会城辺支部
- 令和六年 一月十一日 新穀献納慰霊祭
- 三月九日 今治市上浦町遺族会
- 三月十一日 西予市遺族会城川支部
- 三月十一日 西予市遺族会宇和支部
- 三月二十八日 西予市遺族会三瓶支部
- 三月二十八日 西条市河北遺族会
- 四月五日 西条市周布遺族会

〈永代祭祀料奉納者御芳名〉

- 令和五年 四月 一、式万円也 新居浜市桜木町 三浦 淳子様
- 令和五年 八月 一、式万円也 今治市朝倉 曾我部洋三様

〔奉納者並びに寄贈図書〕

令和五年十二月 一、「ニューヨークで報じられた神道」

大戦前後の紙面から―  
寒川神社様

令和六年二月 一、「乃木神社御鎮座之記」  
東京都港区赤坂 乃木神社様

令和六年三月 一、「風浪宮史料集成Ⅰ『風浪宮縁起』」  
福岡県大川市酒見 風浪宮様

令和五年（十月）秋季慰霊大祭奉仕者

（敬称略）

- 愛媛県遺族会代表献供奉仕者 女性 部 西条市丹原町田野上方 今井満子
- 遺 児 西条市丹原町長野 徳永良治
- 献茶菓奉仕者（茶道裏千家淡交会松山支部） 烏谷宗敬社中 松山市岩崎町 高田宗美
- 重藤宗弘社中 松山市福音寺 桐山宗睦
- 献花奉仕者（愛媛県華道会） 聴 春 流 松山市二番町 大西怜菜
- 聴 春 流 松山市二番町 大西遥菜
- 敬神婦人会代表献供奉仕者（愛媛護國神社敬神婦人会） 松山市遺族会 松山市別府町 得居眞澄美
- 松山市遺族会 松山市大街道 久光美登里
- 奉納生花奉仕者（愛媛県華道会桂月流） 松山市朝日ヶ丘 岩本清美
- 幣殿献花奉仕者（愛媛県華道会聴春流） 松山市祝谷 福田倫子
- 幣殿献花奉仕者（華道家元池坊松山支部） 東温市見奈良 菅野茂美
- 伊予郡松前町浜 三谷文子

献吟奉仕者（愛媛県吟詠剣詩舞総連盟）  
九日 霊聖奉安祭

尺八献奏者  
十日 慰霊大祭

尺八献奏者

献誦奉仕者（愛媛縣護國神社献誦会）  
九日 霊聖奉安祭

「忠霊」

村井安夫会長以下有志一同



御幸の三銘木

愛媛万葉苑保存会

常任理事 藤原 茂

万葉苑や護國神社の境内には、由緒ある銘木があります。新年早々二月のボランティアの会の席上で、これらの銘木を「御幸の三銘木」として大切にすることを決定しました。

古い話ですが平成八年の愛媛県師友会・ひの会機関紙「ひ」八月号で「乳出の銀杏（イチョウ）」を紹介したことがありました。銀杏の木はギンナンと紅葉で親しまれています。その起源は化石から約四億八千万年〜三億六千万年の古生代と言われています。銀杏には「乳の木」という別名もありますが、これは古木になると、枝から鍾乳石状の乳房のような気根が生じることからきていますが、その種の樹液が乳状のせいからとも考えられます。

この乳房のような気根は、潜伏性の不定芽や短枝に貯蔵養分が蓄積されたもので、多くの澱粉を含んでいます。これができるのは主に雄株です。雌株は銀杏(ギンナン)として栄養分が蓄えられて、毎年脱落するからだと考えられています。

銀杏は寿命が長いので県下各地に銘木があります。まずは内子町小田中川の「乳出の大イチョウ」、西予市窪野の「乳出の大イチョウ」、「瑞応寺のイチョウ」、「金竜寺のイチョウ」、「逆杖のイチョウ」、「お葉つきイチョウ」などが県の天然記念物として指定されています。中の二件の「乳出」のイチョウは願えば乳がよく出ると古くから信仰の対象となっていました。

苑にある銀杏は見事な銀杏で、さきの「乳出のイチョウ」に遜色はありません。その頃から苑の有志が「御幸乳出の銀杏」と名付けて保護しておりました。

次の「御幸合格の木」は、昨年春の社報で紹介してきましたが、中国は孔子の時代から有名な孔子に因んで「孔木」とか「学問の木」と呼ばれてきました。正式には「楷」の木ですが、中国では科挙(隋から清の時代の官僚登用試験)の合格祈願木として有名でした。

日本では非常に珍しい木で、孔子縁の三聖堂、東京湯島聖堂・岡山閑谷学校・佐賀の多久聖堂並びに京都綾部の生身天満宮の木が入学祈願木として有名です。苑の木は愛媛県師友会会長であった近藤美佐子先生が、福岡市の山本悟さんを通じて平成十一年十二月に入手されたものです。木は漆樹科の落葉喬木です。雌雄異株で樹齢二十年位になって結実す

るまで雌雄の判別が難しいようです。従って苑の木もまだ雌雄不明です。楷の木は中国では模範の木とされていますが、わが国でも楷は楷書の語源で、意味は「強くて真っ直ぐ・手本」という意味です。昨年一月十一日の読売新聞の編集手帳に「かつての中国では、母親が使う鏡の裏に『五子登科』という四文字がよく鑄込んであったと言う。中国史の碩学、宮崎一定さんはその理由について、『子を五人産んでそれが揃って科挙に成功して欲しい』という母親の切なる念願」と著書(科挙・中央新書)に紹介している。科挙は六世紀後半の隋の時代に始まった官吏登用試験で、合格者は後に『進士』と呼ばれるようになった。世襲的な貴族政治をやめ試験で人材を登用する考え方は当時としては画期的だったとされるが、『五十少進士』(五十才で進士になるのは若い方)という程難関だったという。…中略…受験勉強の苦労や、試験勉強に臨む時の緊張感も昔も今も変わるまい。そして、わが子の健闘を祈り、支えてきた親の気持ちも…後略…」と。前述の神社や学校などでは「合格祈願」や「学業成績の向上」などを願って参拝された折には「是非この『楷の木』の葉を一枚お持ち帰り頂ければ、更なる御神徳が授かれるもの存じます」と案内されています。受験前の秋の頃、神社へ御祈願の折には是非ともこの木の葉を頂いて下さい。その頃にはこの木もすっかり紅葉し、神威も高揚していることでしょう。学園の街御幸に相応しい木です。

次は「御幸昇竜の松」です。言うまでもなく今年辰年で、護國神社の境内には茂木先生の揮毫でお目出度い竜の絵が掲げられ、新年初詣の方は列をなして写真に収めておられました。そのあと万葉苑へ向かう途中、立派な松に出会い、その姿が天に向かって昇り行く竜そのものに見えました。

松は「神の降臨を待つ」に由来し、春夏秋冬一年中色を変えず、炎暑にも耐え風雪にもめげないので、古くから神性靈性の宿る木として神聖視されてきました。現在でも正月には門松として飾られ、長寿・不変・節操の象徴にもなっています。私事ですが、終戦を経た中国から復員帰国して間もない昭和二十一年、新年の歌会始に昭和天皇が詠まれた「降り積もる深雪に耐へて色変えぬ松ぞ雄々しき人もかくあれ」は、失意の復員軍人として強烈な印象を受けたことを覚えています。

なお、この松は万葉苑保存会の常任理事丹原克則さんや木野本忠志さんが、永年剪定管理されてきた松でもあります。



御幸の三銘木



正式参拝

令和5年  
10月24日

漫画家須本壮一氏を囲む会  
須本 壮一様

世話人 森高 康行様

31名

10月27日

愛媛県遺族会理事会

会長 関谷 勝嗣様

16名

11月10日

愛媛県遺族会・英霊に伝える  
会合同研修会

愛媛県遺族会

会長 関谷 勝嗣様

英霊に伝える会

会長 佐伯 要様

110名



11月21日

特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事 鮎田 英一様

1名

11月30日

久万高原町遺族会

会長 日野 典孝様

19名

12月7日

松山市遺族会役員会

会長 西村 利明様

20名

12月10日

ボーイスカウト松山第16団煤払式

団委員長 山下 正純様

30名

12月17日

ひの心を継ぐ会

会長 三浦 夏南様

13名

12月29日

三宅浩正後援会・万葉苑保存会

愛媛県議会議員

三宅 浩正様

万葉苑保存会

常任理事 藤原 茂様

30名

令和6年

1月1日

愛媛県隊友会

会長 小原 友弘様

25名

1月2日

新春居合奉納

折戸 善彦様

1名

新春揮毫奉納

書家 林 龍峯様

1名

1月7日

ボーイスカウト松山第16団

団委員長 山下 正純様

15名

1月19日

西条市4地区遺族会

(周布・吉井・多賀・壬生川)  
周布代表 首藤 洋様

吉井代表 宮川 賢一様

多賀代表 徳永 幸樹様

壬生川代表 武田 修様

18名

1月24日

愛媛県神社庁松山支部 役員

支部長 野口光比古様

12名

1月25日

愛媛県神道青年会

会長 野口 貴令様

9名

2月11日

神田神社氏子青年会

宮司 高橋 宜純様

氏子青年会代表 野田 様

12名

2月16日

愛媛県遺族会後継者の会

会長 関谷 勝嗣様

17名

2月29日

松山市遺族会役員会

会長 西村 利明様

35名

3月10日

前ロシア大使 上月 豊久様

3名

3月22日

愛媛県遺族会理事会

会長 関谷 勝嗣様

15名



12月10日

西条市河北遺族会

会長 栗原 康様

女性部長 山内 智里様

18名

## 愛媛縣護國神社英靈顕彰会 入会と継続のご案内

平成26年11月の設立以来、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。  
今後も英靈のご遺徳を顕彰し後世に伝えてゆくために、愛媛縣護國  
神社英靈顕彰会へのご入会と継続のご協力をお願い申し上げます。  
お問い合わせは、下記迄お願い致します。

愛媛縣護國神社 英靈顕彰会事務局 TEL (089) 925-2353

### 英靈顕彰会会員の特典

各特典	正会員	賛助会員	特別会員	備 考
会費(年額)	3,000円以上	10,000円以上	100,000円以上	
会員対象	個人	個人・団体	個人・団体	
神 札	御 守	紙 札	木 札(小)	年1回発送
社 報	年2回発送	年2回発送	年2回発送	
春秋大祭案内	×	×	○	一般来賓案内
顕彰石彫	×	×	○	

そ  
の  
他

新年特別祈  
禱

初  
宮  
詣

七  
五  
三  
詣

厄  
除  
け

交  
通  
安  
全

家  
内  
安  
全

合  
格  
祈  
願

社  
運  
隆  
昌

御  
祈  
禱  
(お祓い)の  
御案内

当社では各種祈願を随時お受けしております。  
時間等は社務所へお問い合わせ下さい。